

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立三瀬中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

### ■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

### ■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

| 児童(生徒)に対する調査   | 学校に対する調査   |
|--|--|
| 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査<br>(例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、<br>基本的な生活習慣、家庭学習の状況 など | 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査<br>(例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、<br>学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など |

(2) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

### ■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

## ■調査結果及び考察

### 1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

#### (1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童(生徒)の割合。

| 佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目                                   | 本校 %  | 全国平均 % |
|--|-------|--------|
| 学校に行くのは楽しいと思う。   | 91.6% | 86.1%  |
| 将来の夢や目標を持っている。   | 83.3% | 67.5%  |
| 自分には、よいところがあると思う                                       | 83.3% | 86.2%  |
| 学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。 | 91.7% | 84.7%  |

「学校に行くのは楽しいと思う」「将来の夢や目標を持っている」の項目は、全国平均より高い結果が出ています。

「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」の項目は、肯定的な回答をした生徒は全国平均よりも高い結果が出ています。

| 家庭学習の様子に関する調査の項目                           | 本校%   | 全国平均 % |
|--|-------|--------|
| 学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」 | 8.3%  | 9.9%   |
| 「2時間以上、3時間より少ない」                           | 0.0%  | 20.9%  |
| 「1時間以上、2時間より少ない」                           | 25.0% | 30.8%  |
| 「30分以上、1時間より少ない」                           | 50.0% | 19.1%  |
| 「30分より少ない」                                 | 16.7% | 11.3%  |
| 「全くしない」                                    | 0.0%  | 7.7%   |

家庭学習については全国平均と比べ低い結果となりました。全く家庭学習をしていない生徒はいませんが、66.7%の生徒が1時間未満と答えました。

#### (2)改善に向けての取り組み

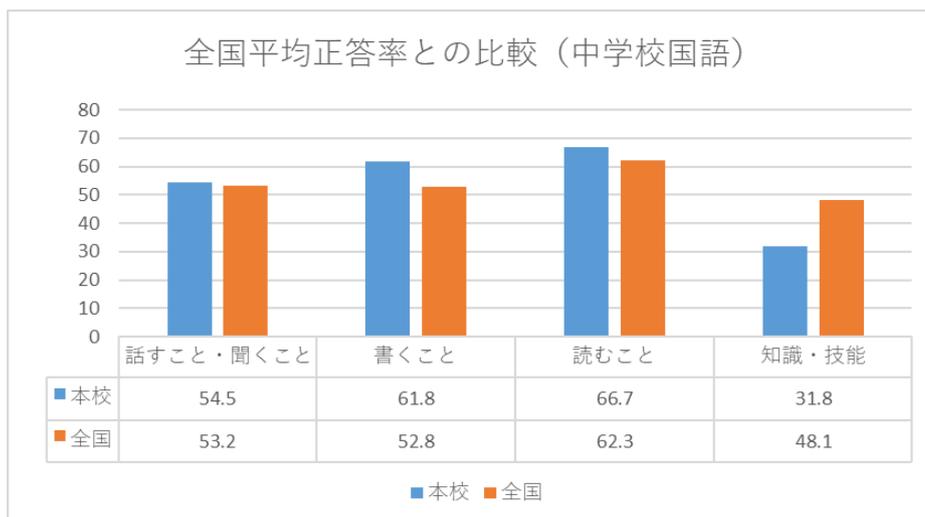
##### 【学校では】

- 学校からは、家庭学習の習慣を身に付けさせたいと考え、曜日で教科を指定して、自学ノート(Jノート)に取り組ませています。また、各教科から授業に関連した課題にも取り組ませています。今後も、担任や教科担当が家庭学習の重要性や取り組み方について指導していきます。
- 基礎・基本の定着を目指し、始業前の時間に、デジタル教材を使ったドリル学習を行ったり、昼休みや放課後に個別の指導をしたりしています。

##### 【ご家庭では】

- 「家庭学習の手引き」を御覧になり、学習時間のめやすや自主学習の説明を参考にして、自分で計画して学習できるように励ましていただきたいと思います。
- タブレットの持ち帰りを始めています。学習用端末を利用したドリル学習もできるようになりましたので、お子様が積極的に利用できるようなお声掛けをよろしくお願いいたします。

## 2 国 語



### (1) 結 果

「話すこと・聞くこと」の領域では、ほぼ全国平均と同等の結果でした。「書くこと」「読むこと」の領域では全国平均正答率を上回っていました。一方「知識・技能」の領域が、全国平均正答率を下回っていました。

また、無解答率をみると、ほぼすべての問題で全国無回答率よりも低くなっていました。

### (2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が全国平均正答率を 16.3 ポイント下回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力です。普段から、漢字や言葉の学習、音読などに継続して取り組むことが必要であると考えられます。

課題は、問題形式の「選択式」の正答率を上げることです。他の形式に比べこの形式での出題数が多いことも要因の一つと考えられますが、全国平均正答率を下回る問題はすべて「選択式」でした。

今後もこれまでの指導を継続するとともに、言葉や文章の意味を正しく捉える力を伸ばすための工夫をどのようにしていくかが課題として考えられます。

### (3) 学力向上のための取り組み

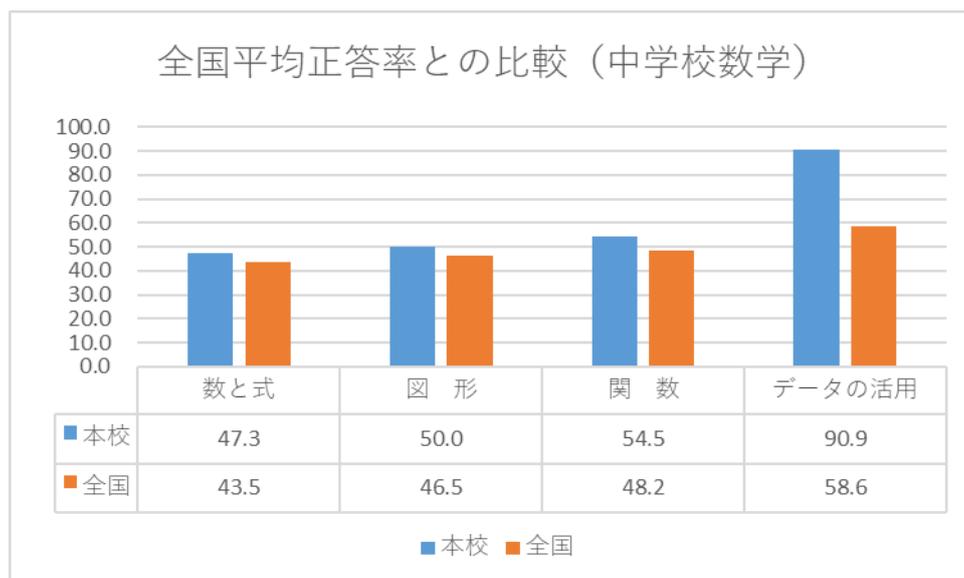
#### 【学校では】

- 語彙や文法、表現技法などの基礎知識を活用した課題解決型の授業を展開します。子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やしたり、分からない言葉はこまめに辞書を引いて確認したりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

#### 【ご家庭では】

- ご家庭で、会話を沢山してください。日常生活の中で目にした四字熟語や故事成語、初めて聞いたり見たりした言葉、専門用語の意味や使い方などを話題にして語彙を増やしていく手助けをお願いします。
- 活字に親しむ時間を大切にしていましょ。三瀬公民館の図書室もぜひ活用してください。読書は単なる学習とは違い、「楽しい時間」「趣味」にもなり得ます。ご家族で読書して、本の情報を交換したり、感想を述べ合ったり楽しく文章に触れてください。

### 3 数学



#### (1) 結果

全ての領域で全国平均正答率を上回る結果でした。特に「データの活用」領域では大きく上回っていました。また、短答式及び記述式の問題形式で全国や県の平均正答率を大きく上回っているのに対して、選択式の問題形式では全国、県の平均正答率をわずかに下回っていました。

#### (2) 成果と課題

ほとんどの問題で全国平均を上回っていたことは、生徒たちの日頃の頑張りがよく表れているものだと思います。特に「データの活用」領域の問題は、とても高い正答率でした。生徒たちが互いに「話し合う活動」や「説明する活動」に力を入れた授業を実践してきたことが、データの活用の領域や記述式、短答式の問題の正答率の高さにつながっていると思います。

ただし、全体を通して、説明の文章が長くなると正答率が落ちる傾向が顕著に見られました。選択式の問題形式の正答率が低いことから、正しく文章を読み取る力をどのようにして生徒たちに身に付けさせていくかに課題があると考えられます。

#### (3) 学力向上のための取り組み

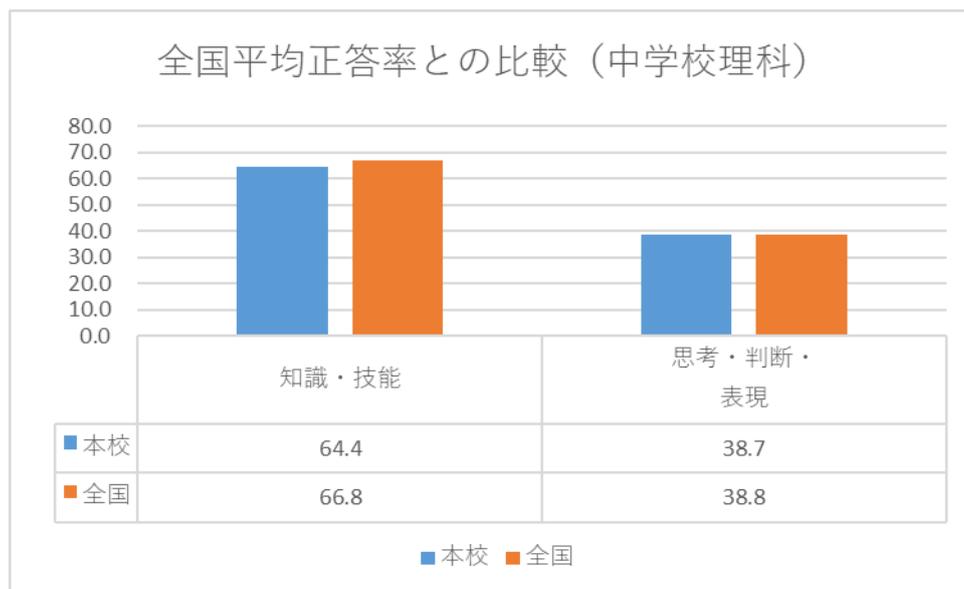
##### 【学校では】

- 継続して、基礎的・基本的な計算技能を身に付けられるよう指導していきます。また、事柄が成り立つことの説明を振り返り、新たに成り立ちそうな事柄を予想する活動や、図形の性質を理論的に考察し、表現する活動を取り入れることで、表現する力を高めることで、文章読解力を高めていきます。
- 様々な見方や考え方ができるように、話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上を目指します。
- 授業における学習活動や課題を通して、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導を行います。

##### 【ご家庭では】

- お子様のドリル学習や宿題のプリントの様子やテストをご覧になり、たくさんの励ましや称賛の言葉をかけてください。
- タブレットの持ち帰りを行っています。学習用端末を利用したドリル学習が家庭でもできるようになっております。お子様が積極的に利用するようなお声掛けをよろしくお願い致します

## 4 理科



### (1) 結果

ほぼ全国平均正答率と同等の結果でした。また、無解答率を見ると、全ての問題で0%であり、全国平均正答率より低くなっています。

### (2) 成果と課題

今回の調査では、「地球」を柱とする領域の振り返りから予想を判断する問題と気圧を利用して身近な事象を選択する問題の正答率が全国平均正答率をそれぞれ18.2ポイント、8.6ポイント上回っていました。

動画を見て呼吸する動物を選択する問題や元素記号を答える問題など「選択式」の問題形式を中心として全国平均正答率を下回っており、問題形式による対応に課題が見られました。

基本的な学習内容の定着と問題形式の「記述式」の問題でも全国正答率を下回るものもあることから、日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 観察・実験を重視した授業で、興味と理解を深めるために、実験や観察を多く取り入れ、目で見て体験しながら学ぶことで、理科に対する関心を高め、知識の定着を図ります。事前・事後の考察を丁寧に行い、科学的思考を養います。
- 基礎基本の徹底とICT活用による理解を強化するために、重要語句や基本的な法則を繰り返し確認するとともに、ICTを活用し、目に見えない現象も視覚的に理解できるようにします。

#### 【ご家庭では】

- 日常の中で理科的な話題に関心を持たせてください。天気の変化や植物の様子、ニュースに出てくる科学技術など、身近な自然現象に触れながら「なぜ？」と考える機会をつくらせていただくと、理科への興味関心が深まります。
- 学習習慣の定着と復習の声掛けをお願いします。授業ノートやプリントを見ながらその日の学びを振り返ることで、知識の定着が図れます。定期的に理科の学習内容に目を向ける声掛け・励ましをお願いします。